

IMAJ

ニュース

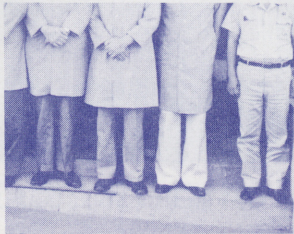
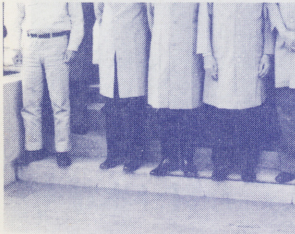
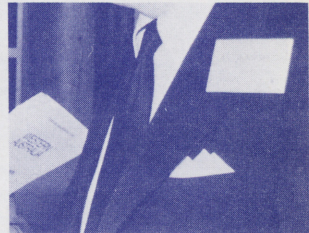
国際MRA日本協会機関誌

発行年月日 昭和56年 5月27日
 発行所 国際MRA日本協会
 発行者 柳沢 鍊造
 (非売品) TEL.03-821-3737(代)

NO.25

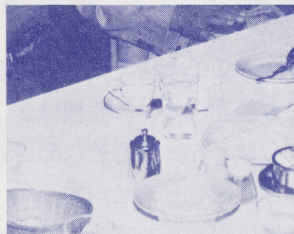
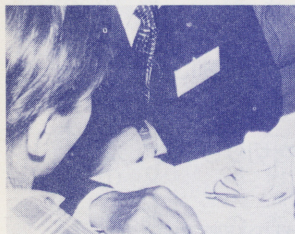
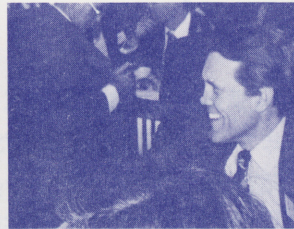
INTERNATIONAL MRA ASSOCIATION OF JAPAN 〒113・東京都文京区千駄木4-13-4

1981年 第5回 MRA国際会議迫る!!



テーマ 新時代の国際チームワーク

- I. 経済危機 —— 変革への好機
- II. 自分のあり方が国のあり方を変える
- III. 世界に対する日本の貢献



◆◆◆◆◆その他の主な内容◆◆◆◆◆

- 私の提言「今、何が求められているのか」畑和
- 心の国境を広げよう……アジアを知る会
- ノルウエーレポートⅡ……田辺澄子
- その他



MRA国際会議へのご案内

テーマ 新時代の国際チームワーク

東西・南北のギャップを埋めるべく相互理解作りを旨とするMRAの各種国際会議は毎年スイス・イギリス・オーストラリア・インド・ブラジルなどで開催されています。日本の姿を正しく紹介するユニークな会議として昨年まで好評を得た「産業人会議」も今年は「MRA国際会議」と装いを改め、こうした一連の世界会議の仲間入りをいたします。幅広い層に亘る皆様のご参加をお待ちしております。

サブテーマ

- I 経済危機—変革の好機
- II 自分のあり方が世界のあり方を変える
- III 世界に対する日本の役割



ごあいさつ

民間レベルでの相互信頼のかけ橋を築くべく広く海外からも参加者を得て開催される「国際産業人会議」も今年で早5回目を迎えました。

いかなる人にも「国と国とのチームワーク」をベースにした真の平和を生み出す役割と使命があると思います。今回は産業という分野にとどまらず教育、家庭といった観点からも幅広い対話が望まれております。

人間社会の平和、世界の調和。それは人間一人一人の心構えとそれに基づく行動によって達成されなければ意味がありません。現在我々が直面している危機はかつてなく深いものであり、私達がなすべき改革は簡単なものではありません。今こそこの混迷を切りひらき、次の世代に伝えるべき新しい価値の創造を急がなければなりません。

この会議では世界各国の人が一堂に会し、人間性の変革を学び、それぞれの分野で新しい世界建設への一歩をふみ出したいと思っております。

各世代、各方面よりの積極的なご参加とご発言をお待ちしております。

- 日時：昭和56年6月4日(木)/5日(金)/6日(土)/7日(日)/8日(月)
- 場所：MRAハウス・アジアセンター 〒250 小田原市城山4-14-1 TEL.0465(22)1631~3
- 主催：国際MRA日本協会

● 日程表

	6月4日(木)	5日(金)	6日(土)	7日(日)	8日(月)
8:00		朝食	朝食	朝食	朝食
9:00					
10:00		会議 テーマ(II)	会議 テーマ(I)	会議 テーマ(III)	解散
11:00					
12:00					
1:00		昼食	昼食	昼食	
2:00					
3:00		分科会	分科会	分科会	
4:00					
5:00		会議 テーマ(II)	会議 テーマ(I)	閉会式	
6:00					
7:00	夕食	夕食	夕食	夕食	
8:00					
9:00	フランク ブックマ ンの夕べ	産業人 セッション 開会式	映 画・ スライド の夕べ	懇親会	

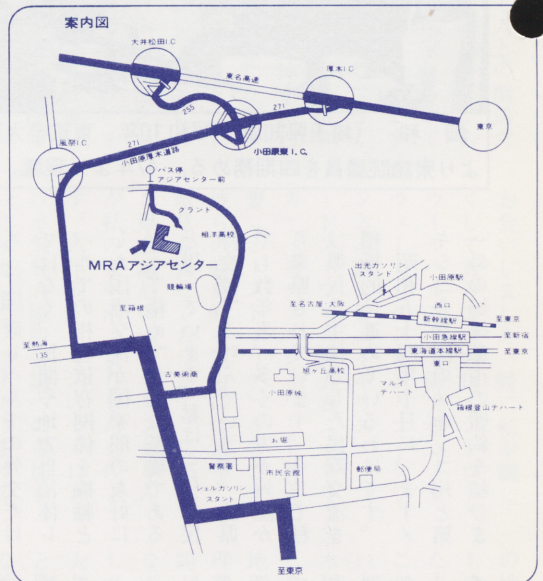
● 会議に関するお問い合わせ、又は
ご連絡は……………

MRA国際会議事務局（国際MRA
日本協会内） 〒113 東京都文京区
千駄木4-13-4 TEL03(821)3737(代)

申し込み方法

- 定 員：150名
- 参加費：1泊 7,000円(含、食事)
日帰り 4,000円
(但し学生 5,000円)
- 参加お申し込みは同封のハガキにて
直接MRA国際会議事務局へ
TEL.03(821)3737(代)
- 参加費のお振込み：下記の口座へ
富士銀行動坂支店(普)236-867288
口座名：MRA国際会議事務局

● 会場案内図



スイス世界会議のお知らせ

一九八一年コーのサマープログラム

- 会期 一九八一年七月四日～八月三十日
- 会場 スイス・コー・マウンテンハウス
- メインテーマ
崩壊が再生か——新しい力の源を求めて

主なセッション

- 七月四日～七月十四日(オープニングセッション)
——大洋州週間)
- 七月十六日～七月二十四日(青年主催会議)
- 七月二十七日～八月三日(家族会議)
- 七月二十七日～八月三日(家族会議)
テーマ 世界と家庭を結ぶニューライフスタイルを
求めて
- 八月五日～八月九日(医療健康会議)
テーマ 病める現代社会への思いやりと処方
- 八月十五日～八月十九日
アフリカ会議
- 八月十九日～八月二十三日
政治家会議
- 八月二十五日～八月三十日(産業人会議)
テーマ 経済危機——変革への好機

この会議に参加をご希望、又は興味をお持ちの方は、
コーについての詳しい日本語のパンフレットが用意して
いますので、事務局までお問い合わせ下さい。

(実費一部二〇〇円)

今、何が求められているのか



畑 和 (埼玉県知事) 昭和10年、東京帝大法学部卒。35年より衆議院議員を四期務める。47年より現職。現在三期目。

今、世界はその多面性、そして不確実性を増しつつ激動しています。既成の価値感はいち挑戦を受けていると言えるでしょう。

混沌の中にもすれば目的を見失ないがちなこの時代にあつて、私達に本物を見極める確かな目が要求されています。このシリーズでは毎回、各界の方々に登場していただいて世界を、日本を、そしてMRAを語っていただきます。第一回は国際交流に情熱を傾け、毎朝テキスト片手にTVの英会話講座を見るという埼玉県知事、畑和さんに「今、何が求められているのか」というテーマでお話をうかがいました。《寒河江 亮》

民際外交の推進こそ

日本の生きる道

——知事は単に県政にとどまらず、国際交流にも力を入れていられると聞きしますがそのきっかけと理念を。又、知事自身の生き方、公務の上で、それをどの様に役立てているのですか？

畑 現在、世界の情勢を概観してみますと、国家体制のいかんを問わず、ますます相互依存の関係が深まりつつあります。一国が単独では生きていけない国際化社会の時代であると思っています。私がかねがね新国際秩序というものに関心を持っておりまして、その意味でこれからは国政レベルでの外交だけではなく、民間や地方自治体レベルでの相互依存関係を機軸とした国際交流が国家間の友好にとって極めて大切な基礎であると思っています。私はこれを「民際交流」と呼んでいます。当県でも数年来、多くの方が外国から来県されています。そこで私は県民を主体とした民際交流を積極的に進めているわけです。昭和五十四年十月に、まずメキシコ合衆国のメキシコ州と第一号の姉妹都市の盟約を結びま

に何が求められていると思いますか？。又、日本のなすべき選択とは。

畑 現在、ご承知の様に自動車、テレビ、あるいはエレクトロニクスを中心とする日米経済摩擦が焦点となっています。又、ヨーロッパでも日本の急激な進出を牽制する動きがあります。しかし、日本は基本的に資源小国でありますので、どうしても資源を輸入し、加工し、それに付加価値をつけて輸出する産業主体の貿易立国以外には進むべき道はないと考えます。そのためには技術開発をすすめるのもとより、平和外交や経済協力を通じて、新しい経済秩序の形成に寄与することが何よりも重要だと思っています。激動する世界の中で日本のなすべき選択とは何かと申しますと、利己的な目標だけの追求はもはや通用しませんし、又そうすべきではありません。エネルギー資源、食料技術などを自発的に提供していつて、経済協力を中心とした平和外交戦略をしっかりと持つことだと思っています。又、これらの組み合わせ、考え方、改良の仕方というものが大切だと思っています。いわゆる正しい意味での全方位外交を日本の外交の基本

した。人物交流を主体にして教育、文化、産業、経済、スポーツなど多彩な交流に努めています。又、四月八日から中国を訪問し、友好関係を促進して行くつもりです。又、メキシコや中国に限らず広く諸外国との友好を推進していきたいと考えています。このことは自治体相互、それから市民と市民との交流によつて国際協定の推進に結びつくものだと思います。国政レベルでの外交ではどうしてもイデオロギー、又は国家間の利害関係に左右されてしまうことが多いので、今日的な自治体の新しい時代における役割でそれらを進めることが、いわゆるギャップを埋めてゆくことだと思っています。それが我々自治体、民間の役割だと思ひますし、そうすることが国際親善、友好、平和の基礎をなすものだと信じています。かつ、五四五万埼玉県民の国際感覚や情操を養つて理解を深める上で大きな役割をなすものだと考えています。

——国内外の厳しい情勢が続く中で、現在日本の外交、内政

にすえることだと思えます。この外交努力において培われる各国との友好親善関係の樹立こそが最も大事だと思います。私も自治体の首長としての立場で国際化社会における自治体の果たすべき役割という視点から、これを大いに推進してゆくつもりです。県内においても現在九つの市において各国都市との姉妹提携が結ばれておりまして、多様な交流が進んでいます。これからも知事の立場でそれらの推進を計っていきたいと考えています。今後は世界に誇る日本文化の紹介、あるいは外国文化の導入、紹介などを通して文化の面で国際間における相互理解の面を作っていくたいと考えています。長期的視点に立った息の長いこれらのことの蓄積の上こそ、国際平和が期待出来ると考えています。

—— 昨年来の一連の憲法、防衛論議。ソ連に対する声高の脅威論等、まるで力に対抗するのは力のみであるかの様な風潮が見うけられますが知事の考えを。

畑 私も同感です。目には目を、歯には歯を式の方法では問題は解決出来ないと思います。立場の違いはあってもMRA精神を基本として必ず話し合える

と思えます。人と人との関係だけではなく、個人の集合体であるところの社会、国家においてもそれは可能であると思います。対立点を問題にするのではなく、共通点を話し合うことが大切で、かつて私達が体験した戦争の悲惨さは切り切っているはずですが、私は日本の憲法というものはMRA精神に合致していると思えます。戦争を放棄しているところの我が国の憲法は世界に例のないものです。日本は経済的に世界の安全というものに大きな役割を示すことが出来ます。又、経済援助というものは、直接的な効果はすぐには見えないかも知れませんが、結局は国の防衛になると思っております。長い目でやっていかなければなりません。世界に類いなき平和憲法を持つ我が国は人道的な方法によって世界の平和に貢献出来るはずで。

—— MRAを通じた世界各国の人々との出会い、体験の中から一言。

畑 私も十数年前からMRAに若干関係を持つようになりまして、さまざまなMRAの指導者の方々、フルタイムの方々とお会いしました。特に私が親しくしておりますのはイエンツ・ウイルヘルムセン御夫妻（ノルウェー）、ダンカン・コークランさん御夫妻（イギリス）、ゴードン・ワイズ御夫妻（イギリス）、スタン・シェパード御夫妻（オーストラリア）などです。彼らの献身的な努力には常々、敬意を表しております。私がまだ県会議員の頃、イエンツさんが私の家へ泊ったりしたもので、六年前、スイスのコーにけるMRA国際会議への参加をいたしました。コーでは多くの方々との交流を果し、私もスピーチをいたしました。国境を越えた誠意ある人間愛が信頼しあえる関係を作っている。国際協力の上で大きな支援となるものであります。日本でしか通用しない価値感でモノを促さないで、世界に通用するモノサシを持つて相手のためにも自分のためにも、日本人としての誇りを持ちながら理解することが大切だと思います。

—— 日本、そして世界のMRA勢力がこれからの世界で果していくべき役割について何かアドバイスを。

畑 MRAの創始者「フランク・ブックマン博士の言葉に、こ

の地球上に人々の必要を満たすものはあるが、人々の貧欲を満たすものはない」とありますが、これがMRAの原点だと思っています。昭和五十年の十月に日本MRAが再スタートいたしました。MRA運動というものは地球の規模で展開されることが理想だと思えます。東西緊張問題、あるいは経済的なことが主な南北問題、こういった問題にしても人類の安全と平和という大きなテーマの視点から見ますと世界の人々はお互いに世界的な視野に立つて道義を基礎とした真実と良識を持った国際社会を作ることがカギだと思っております。ついでには四つの絶対標準、正直、無私、純潔、愛が大切であると思えます。この考え方は道義的基準、あるいは目標としてヨーロッパ、オセアニア、インドあるいは南米などにあるMRAセンターを拡充、強化して民族間のパートナーシップのために根気強い運動を展開することが大事だと思います。それにはMRAの精神にのっとったフルタイムの方々や世界の指導者の人々に働きかけ、指導者を変えてゆく、チエジしていくことによつてその国が変わっていくと思えます。人を変えるにはま

ず自ら変われといいますが、確かにその通りであると思っております。この辺が真髄でしょう。今日、経済優先、文明先導型の社会というものは転期を迎えていると思えます。これからは“うるおい”、“思いやり”、“ゆとり”、“ふれあい”、“親しみ”など心豊かな生活文化が求められています。この様な今日的な社会背景を考えると、MRA運動と我々の目的は一致いたします。私も県民文化の振興を県政の重要課題に位置づけまして、いわば世界市民の実現を目差しています。とにかくこれからの時代は世界的感覚でモノを考えなければなりません。

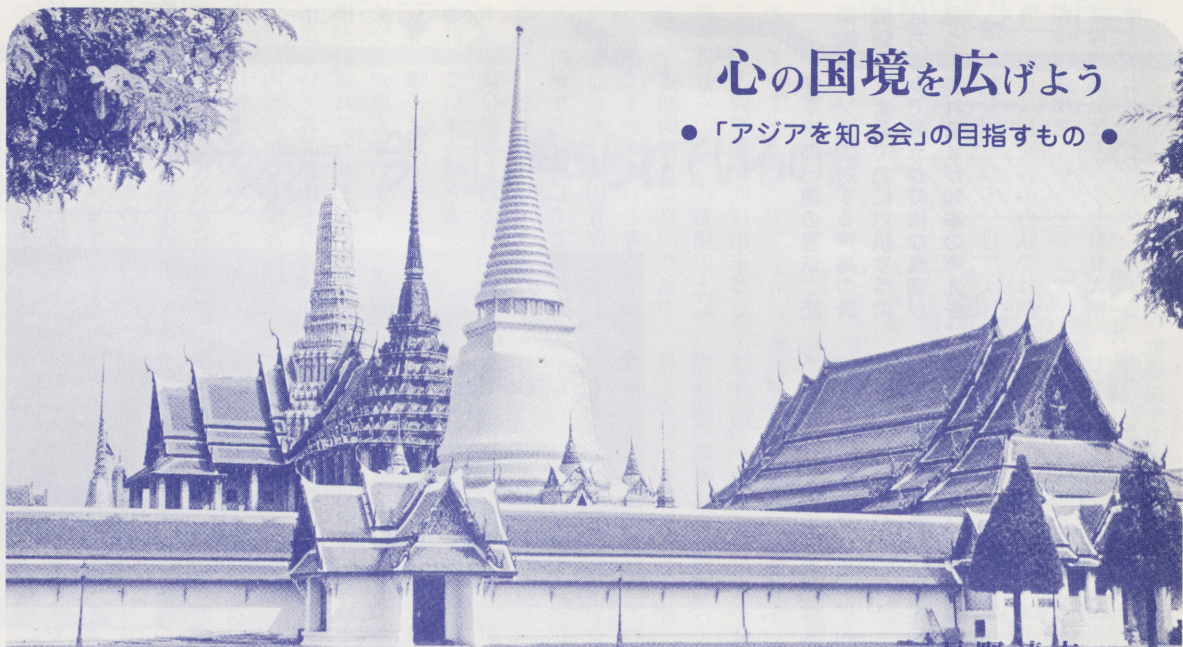
(終)

・インタビューにご協力をいただいた埼玉県議員、神たか子さんと



心の国境を広げよう

●「アジアを知る会」の目指すもの●



長野清志

「なぜ日本人は白人にはとても親切なのに自分達には余り、関心を払ってくれないのですか?」、こんな質問を私も東南アジアの留学生からぶつけられたことがあります。

又、イギリスで出会ったマレーシアの青年は技術研修で日本に一年半滞在したというので、「日本人の家庭に滞在したことがありますか?」と聞くと一寸寂しそうな顔をして、「一度もありません」と答えました。

日本に來ているインドシナの難民の人々に尋ねても日本人の友人を持つている人は少ないようです。私はこのような話を聞くたびにいつも残念に思います。何故ならば日本人の中にも素晴らしい人が沢山いるのを知っているからです。もし出合いのきっかけさえあればお互い良い友人が得られるはずです。

そういう出合いの場を作りたいたいとも思っていました。又私達の日常入手する情報はどうも欧米のものに偏り、距離的に近いアジアの国々について却って知らないことが多いのではないかと感じていました。そこでアジアの国々について学ぶと同時に、出来ればその国々の人と交流が図ればと願って、

この「アジアを知る会」を始めました。まだ始めてから日も浅く集まる人数も決して多くありません。しかし、少人数だけに参加者も気軽に発言できるのではないかと思います。講演の内容もさることながら、参加者同志の交流が深まって欲しいと願っています。他の国について知るといふことは、同時に自分の国について学ぶということにつながるようです。自国の良い点、悪い点について認識を新たにさせられることもしばしばです。

それではここで、過去開かれた五回の会を振り返ってみたいと思います。

第一回は中国の山東師範学院で今も日本語教師として活躍されている金丸良子さんから現在の中国事情についてお聞きしました。

中国の学生達の衣食住に亘る日常生活から文革の後遺症に至るまで生の情報に接することができました。殊に公德心の低下に心を痛めておられる講師の、新しい国作りのお手伝いを若い学生の指導を通してやろうという情熱がひしひしと伝わってくるような講演でした。第2回はインドでのMRA国際会議への参加者招聘のため来日されたインドのスプラマニアンさんとカパデアさん、そしてマレーシアのカナガサバイさんよりそれぞれインドとマレーシアのお話しを伺いました。多人種の共に住むことの難しさと同時に両国の文化の豊かさと同様さというものを感ぜさせられました。この日はインド舞踊も披露されました。第三回は季仁夏牧師より「日本の中のアジア―在日韓国(朝鮮)人問題について」の演題でお話を伺いましたが、如何に私達がその実情に疎いかを知らされました。正に偏見は無知と無関心から生ずるものであり、このように直接話し合い、理解を深め合える場が必要だと感じられました。講師の言われたように「足許の異質を受け入れる」ことが出来るようになった時、日本の本当の意味での国際化が始まるのかも知れません。第四回はカンボジア、タイその他を視察してきたMRA事務局の藤田幸久より、カンボジアを初めとするインドシナの動向をスライドを用いながら報告してもらいました。第五回はシンガポールの留学生で大学院でジャーナリズムを学んでいる郭春貴さんからシンガポールの歴史、

文化、教育など多岐に亘りお話しして頂きました。学校が義務教育ではない。又、日本以上の受験地獄が存在するなど余り知られていないのではないでしうか。

このように毎回新しい発見をしていく中から今更ながらアジアの多様性を感じさせられます。同時にそれらの発見を通じて日本が、そして私達日本人一人一人が今何をするべきなのかというこのヒントが得られるのではないかと思うわけです。そしてこの機会に出合うアジアの友人達との交流も大切にしていきたいと思えます。私達の心の中心の国境がどんどん取り払われていくことを願いながら、これからもこの会を続けていきたいと思えます。なお、会の案内を希望する方がございましたら事務局までご連絡下さい。

連絡先

国際MRA日本協会

長野清志

〒113 東京都文京区千駄木

四―十三―四

TEL 03―821―3737 代



今回で第五回目を数える「アジアを知る会」。毎回多彩なゲストを迎え、その小さいがしかし確実な歩みの中に老若男女を問わないフレッシュな問題意識を持った人々の輪が広がっているのを感じる。今回の講師はシンガポールの郭春貴さん。現在日本の上智大学大学院で新聞学を専攻している中国系シンガポール人である。郭さんの経歴を簡単に。

一九七三年、現在は国立シンガポール大学に合併された中国系の「南洋大学」を卒業後、二年半にわたる兵役に従事する。除隊後、新聞社に一年半勤務。七八年に来日した。将来は教育方面にすすみたいとのこと。

四つの異なる言語が話されているというシンガポール出身だけあって、郭さんの日本語は見事である。常に正確な日本語を話そうとする姿勢には特に教えられる。まず郭さんは「八十年代は国際化の時代です。しかし日本では欧米に追随することがまるで国際化のように思われていることはありませんか？」と鋭く指摘する。鈴木首相のASEAN歴訪を高く評価する一方、「国際交流は平等の立場です。めることが大切です」と痛いと

ころ。郭さんに用意していただいた資料からシンガポールについて簡単にふれてみよう。面積が六十六平方キロというから日本の淡路島を思いうかべていただきたい。人口は二三百万人のミニ国家。人種の複合した多元民族国家である。前述のように四つの言語が公用されており、マレー語が国語であるが、奇妙なことにマレー語はほとんど話されていないそうである。政府の文書はすべて英語。その結果タミール語、中国語（特に方言）は無視されていっている。

英語重視政策をとる政府は、家庭においても方言の使用をやめ、「普通語」の使用をすすめるキャンペーンを展開しており「福建語（方言）しか話せない私の母は、本を読んでも分らない、テレビを見ても分らない、本当に可哀想」と郭さん。

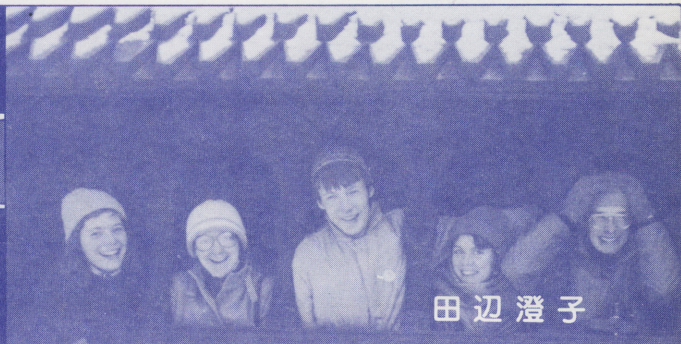
さて郭さんがあげたシンガポールの五つの特徴。一、多元民族、多元言語。二、強い植民地（英国）の影響。三、移民社会で、文化の根がない。四、地域自体のもつ重要性と危険性。五、外資で経済発展。「この国にはいわゆるシンガポール文化、シンガポール語というものがありません。本当に淋しいことだと

思います。政府はその文化を作的に生み出そうと一生懸命ですが、文化とは歴史の流れの中で自然に出てくるもので、作るものはありません」、そう語る郭さんの心境は私達には知る術もない。さて、日本で最も感銘を受けたのは教育制度だそうである。日本の教育の現状を充分承知している郭さんがあえてそう言うのだから素直に受け取りたい。シンガポールには義務教育がなく、エリート教育を強力で推進しているという。高校がほぼ義務教育化した日本。数字の上からは教育の機会の分配、水準の高さは世界のトップレベルにある。シンガポールではわずか四％の人々が最高教育を受けられることが出来る。「私はその四％の一人だけど、むしろその現状が恥ずかしい。もっと教育が一般に普及してほしい」。最後に「日本での生活、日本人に教えられることは多い。この体験は私の人生で忘れられないことです。留学生として自国を外側から見るのが出来てうれしい。日本は世界で一番注目されています。故国に多くのものを持って帰りたい」そう結んだ。(S)

今回は、ヨーロッパ各地を訪問しながら、MRAを学び、国籍を超えて学び合う生活の中から、信仰による生き方を学ぶ、MRA十ヶ月トレーニングコース受講中の若者十名の様子を、レポートします。

昨年十月中旬、スイス、コーに、ヨーロッパ各国（英、仏、西ドイツ、オランダ、デンマーク、スエーデン）と、カナダから二名の青年男女が、このコース受講の為に集まりました。このクリスマス会議の運営、コースの資金をバザーで集めたのち、いよいよ最初の訪問地、デンマークに出発しました。約一ヶ月を彼地で過したのち、一月三十一日の朝、一行はノルウェーのオスロ港に到着しました。このグループを迎えるために、ノルウェーの若者達が計画を立て、ホストの手配など、色々な準備をしました。私はそれに参加する事が出来たこと、又、コースの若者達と一緒に行動出来たことを感謝しています。

最初の二週間は、国会議事堂見学、保守両党の政治家たち、労働組合幹部とのミーティングなど、ノルウェーの国情を知る勉強と、芸術家ビクター・シュバレー氏とのひと時など、ノル



田辺澄子

ノルウェーレポート II

ウェーのリーディングビープルとも言える人達との出会いに費されました。

二月のノルウェーは何といっても、絶好のスキーシーズンなので、各自スキーウェアをホストから調達してもらい、車で二十五分程の、世界で最も素晴らしいクロスカントリーコースだと言われる、起伏に富んだ、景色の美しいコースでスキーを楽しみました。

私はその時、このMRAの不思議さ、国境を超えて共に学び交流出来ることの貴重さをつくづく感じました。

さて二週間の講義のプログラムを終え、一行は二組に分れて、半数はノルウェー北端の都市トロンブソ、スエーデンの北の都市キルナ等を訪ずれ、フィンランドからの人々と合流しました。残りの人々は、ノルウェーの労働組合本部の副議長、若い人々とのミーティング、又、オスロ郊外の職業訓練校を訪問したり、多彩な人々との交流を果たしました。

ストックホルムで合流した後、軍隊の見学や、政治家との会見をしたり、又、森で木を切ったり、色々な体験をしました。スエーデンの国会議事堂も見学す

ることができました。多分、世界でここだけだと思うのですが、市からの借用ビルで、とても近代的な美しい建物でした。

さて三月二十日から講義を中心としたテールスタディーと呼ばれる、十日間の日程が始まりました。例えば、午前は聖書の中から数ヶ所を選び、解釈をしたり、討議をします。またこのコースがスタートした時に、各自が自由に本を選び、その中から問題提起をするという時間もありました。

「学歴とサラリーの相関関係について」とか、「二日二時間労働」といったユニークな問題提起もありました。労働時間とくれば働き中毒の日本人。勤務状況や勤労観について、随分沢山の質問を受けました。午後の時間は、世界で起きている様々な問題について、どう解決の糸ぐちを見つけたらいいのか話し合いました。しかし、理論と現実のギャップ、各自の真剣な認識と解答への努力、というものに対して、それなら我々は一体何が出来るのか、という具体的な意見と議論が少なかったように私は感じました。

二週間の講義の日々も終りに近づいたある日、「家族とは？」

というテーマで、一番身近な人間関係である家族を考え直す機会がありました。

ある参加者は、自分の母親がある理由からどうしても許せない、こうして母親を語る時、どうしても自由になれないと語り、またある者は、今まで両親に感謝していなかったことを反省し、お互いの関係を見つめ直して、改める決心がついたと話してくれました。

身近であるが故に思いやりを忘れがちで、そして許し合うことの難しい家族のあり方というものを、また家族一人一人に健全な家庭を形成する責任があるのだという永遠のテーマを改めて考えさせられた討議でした。バルチック海に面した美しいスエーデンのセンター「アルナス」での二週間に及ぶ日程を終え、一行はスエーデンの二番目の都市ゴツセンバークへ汽車で向いました。その後、ドイツのベルリンでの数日の日程を過ごし、スイス、コーへ戻ります。

国際親善は家庭から

— 家庭滞在受け入れの御願い —

アロタウ………。パプアニューギニア南東部のミルンバイ県にある。第二次大戦の時、日本軍の最初の上陸地点だったという。

そのアロタウから「ヤンマー」のモーターが付いた 小さな舟に乗ること十七時間。ついに親友ダイニシの島へついた。

彼女から幾度となく聞かされた、楽園ボナルワ島は今、夜の八時。波のむこうに 一点の灯もなく静かに横たわっている。



中島めぐみさんの親友ダイニシの住む島“ボナルワ”の海岸にて。楽しい夢のような日々もアツという間にすぎさり、いよいよ出発の日の朝。島の人々が総出で見送ってくれた。

突然、女性の叫び声が重なり合っ
て聞こえて来た。「めぐみ、悪い時に来たわね。あれはお葬式の泣き声よ」とダイニシが囁く。内心、ドキッとすする。音もなく現れたカヌーに乗り込み、島の白い砂の上に、日本人として初めて足跡をつけた。島の住人は約四十人。昔、白人の宣教師が2時間程 立ち寄っただけだそう、私はこの島の 名誉ある外人初ゲストとなった。ランプを持って走り寄ってきたダ

イニシのお母さんが、何度も私を抱きしめて歓迎してくれた。お父さんのほうは、私の為にこの島始まって以来初の オフロ場とトイレを建ててくれたという。トイレは山の中腹にあり、海を背にジャングルのハイビスカスを眺めながら 腰掛けられるようになってる。オフロ場はバナナの葉を上手に重ねて作った、G型の囲いを海辺に建てたものだった。

砂糖キビなどがとれ、魚を釣って生活している。現金が必要な時は、コブラ（ココナッツ）を共同で集め、アロタウへ持って行って売るといふ。一度皆でココナッツのジュースを飲んでいた時、「このココナッツの樹はどここの家のものなの？」と尋ねたら笑われた。全て皆で分け合って暮しているうだ。

しかし、楽園にも問題はあ
る。本土から遠い上、島には医者がいない。先日の葬式も二才の坊やが たった二日間下痢をして亡くなったのだそう。

こうして暮すこと十六日間。「日本人という戦争のイメージが私達とよく似ている普通の人なんだ」と話した人がいた。

そして別れ。ダイニシのお父さんが私に言った。「お前をここへよこしてくれた 両親にありがとうと伝えてくれ」と。彼らの心の豊かさ、美しさに圧倒された日々。日本人との違いを見つけたより、お互いの共通点を喜んでくれた人々のいるあの島へ、不思議に今でも帰りたいと思ってしまう。

御案内

国際MRA日本協会は、倫理性と調和をもった世界作りのため、世界のMRAチームとの連繋のもと諸般の活動を行っております。毎年開催される国際産業人会議もその一環であり相互理解と信頼の絆は年々強まっております。他にも人材育成のための研修生の海外派遣、研究会、講演会の開催等々、日本人の『心の開国』を推し進めるために活動しております。ぜひこの活動にお加わり下さい。御入会下さった方にはニュース初め各種会合の御案内をさせていただきます。

一、会費

- 個人(特別) 月額一口 一〇〇〇〇円
- 個人一口 五〇〇〇円
- 法人一口 五〇〇〇〇円
- (共に年額)

一、払込先

- 第一勧業銀行代々木支店 (普) 一六三一一〇一四 三三六
- 住友銀行新宿西口支店 (普) 二五九一四一八三 七九
- 富士銀行動坂支店 (普) 八六一一二二〇
- 国際MRA日本協会宛

「日々の生活にもっと感激と感動をとりもどそう。子供はそうした環境の中でこそ育つ。しらけムードを打ち破って、意欲的な対話を行ってゆこう。」。ほぼ1ヶ月半に1回の割で行われるMRA関西例会では、常に前向きの姿勢で、種々の問題が論じ合われ、そして解決にむけての具体的な提案がなされています。今回はその様子を、関西世話人会の沖田さんにレポートしていただきました。

「正しいことを、信念をもって実行している先生を、父兄がはつきりと認め、声を大きくして讃えましょう」、「校内暴力がなぜ起るのか、原因や状況は夫々異なっている。親がもっと子供のことを真剣に考えて、子供達に接してゆけば解消出来る」、「家庭の中にもっと感激と感動をとりもどそう。子供はそんな環境の中で成長する」、「親がMRAを通して確信をもたなければ、子供は正しい道を進むことが出来ない」等々、熱気にみちた対話がくりひろげられ、時間の経つのも忘れる程でした。三月例会のひとつまでです。

関西のMRAグループには組織らしいものはありません。関西人特有の自由で、束縛されず、実をとる考え方がMRAの歩みにびったりなのかも知れませんが、最近の動きの中心は月例会で、以前はひと月おきでしたが、今年から毎月となりました。もとのジバ関西が国際MRA日本協会の発足とともに、MRA関西グループに発展して六年になります。たつぷり時間をかけて話し合いをとの総意が実って、秋に開かれる一泊集会も三回をかぞえ、今年も開かれることにな

るでしょう。五月または六月の例会は、東京での国際産業人会議に海外からの参加ゲストのうち、関西への立寄りを希望される方々をお招きして、中規模の集会を二度開きました。有志の御尽力で、京都、奈良見物、お茶の会、工場視察なども行なわれ、ゲストの方々に喜んでいただくことが出来ました。今年も新住友ビルで開催が計画されています。ゲストを迎えない一般集会では、家庭、子供、教育、人生など身近な問題を通して、MRAによる新しい生き方を学んでいます。

相馬雪香さんのお話の中に「話し合いを通じて、一人一人の動きが止まらないよう、一堂につどって励まし合い助け合うことが大切」とのお言葉をいただきました。出会いの縁を大切に、参加された方々が共通の理念のもとに、心からの知己になつていただける場をと心がけています。

オーストラリアから見えたジャック・ケネディーさんが「シドニーでは第二土曜日にミーティングをもっている。失望したとき、チームの人達が共に励まし祈ってくれた。皆さんが失望



したとき私達が一緒に居ることを思いおこしてほしい」と語って下さった温い思いやりを忘れることが出来ません。

全く地道なあゆみですが、永續きすること、いつでも気軽に集うことをモットーとしてきました。最近はおーストラリアのMRA センター、アーマでのスタディコースを終えた市座久子、多羅みちえ、真鍋隆子の皆さん、遠く京都、山科からはせ参じて下さる亀井里美さん、忙しい仕事をやりくりして英会話の研究グループの皆さんと共に参加下さる石井統市さんらをはじめとして、若い方々の参加も増えてきました。これからの展開が楽しみです。会場は市内肥後橋の住友クラブの会議室も使わせていただいていたことが目下のところ改築中、その間、以前ジバ関西例会会場であった日立造船会館を提供していただいています。神戸方面の方も多く、夜遅くなって大変なので、いずれは神戸でも会場がもてるようにと願っております。

MRAを知識として理解するだけでなく、一人一人がチェンジの体験をもち、確信を伝えて周囲を変えてゆく絶好の機会であってほしいと考えています。



最近のMRA関西例会から



休日を利用して食事を共にしながら、たっぷり時間をかけて話し合いたいとの希望もあり、いずれ実現出来ると信じています。会員制にしようかとか、案内状の郵送料、ゲストの旅費、滞在費の捻出等、苦勞が絶えません。しかし、その都度有志のご負担をえて、何とか切りぬけています。月例会の案内は、

世話人の山内俊平さん、そして住友義輝さんご自分で印刷を引き受けて下さり約百五十通出しています。新聞広告をおねがいのしたこともあり。在阪各新聞社には心よく無料で掲載してくださるので、有り難いことだと思えます。

これまでお迎えしたゲストのお名前は、ページ数の制約上省略しますが四十名をこえます。感銘深いガイダンスをシェアしていただき、感謝にたえません。考えてみますと、ゲストの方々から与えられるばかりで、これからはお返しをしなければいけないと思っています。チームの結果をいっそう強めて、外に働きかけを実行しなければならぬと考えています。

この紙面をお借りして、関西グループによせていただく、皆様の温いご支援にお礼申し上げます。

ますと共に、今後の精勵を誓わさせていただきます。
最後に、世話人の方々を紹介
します。

住友義輝、住友美子、兼松正、
生尾頼尾、徳光憲、山内俊平、
鈴木富治、北田勇、石井統市、
多羅みちえ。





連載 ①

人と機構

イエンツ・ウィルヘルムセン

今世紀になってわれわれは、人間の改造が先か構造の改革が先かという論争を時代遅れなものにする経験を数多くしている。

資本主義の発展は、究局のところ思い切った構造上の改革が必要だということを証明しているし、共産主義も同様にどのようし、機構を変えようとも、人間の改造がこれに伴わなければならないことを明らかにしている。

こうした事実を背景にマルクスを見直すとき、彼自身は弟子たちほど偏狭な考えを持っていなかったことがわかる。例えばフォイエルバッハに関する三番目の論文の中でマルクスは次のように書いている。

「人はその生いたちや環境によって作られ、異った環境や育ちが人間を変えるという唯物的

論理は、実は環境を変えるのは人であり、教育者自身も教育される必要があるという事実を忘れてる。」

エンゲルスも弟子たちが人間の要素を過少評価していることに不平をのべている。「若い人たちが経済的要因を重視し過ぎる傾向を持っていることの責任の一部はマルクスと私にある。というのは、相手を論破するために特に相手が反対する点を強調する必要があったからだ。いろいろの要素の相関関係を十分説明する好期も機会も無いことがあった。」

マルクス主義者が人間的要素を無視してしまつたと同じようにキリスト教徒もしばしば信仰が社会に与えるべき影響を無視してしまつた。ポーランドの作

家コロコウスキーは彼の著作の中でこう書いている。「キリスト教徒は個人的美德という宴會用の靴で血ぬられた歴史の沼を渡っている」。キリスト教徒が、

キリストの教えを社会の現実に結びつけられなかったことが、マルクスやエンゲルスをして代わりのものを求めさせることになったのである。その後、社会的責任に目覚め、多くのクリスチャンが社会改革の戦いの前線に立つようになった。しかし

極端から極端に走つたものもある。著名なドイツの新左翼のリーダーが私にこう言った。「クリスチャンが、いったんマルキシズムに興味をもつと極端に走り、スターリニストになるものがあるから困る。彼らはキリスト教の信仰基盤によってこそ大きく寄与できるということを悟らねばだめだ」。資本主義の欠

点は人の態度にあるだけでなく構造にもある。利益を發展の原動力にするから恵まれない人に対する無関心さが増長されてしまふ。「金づくりだけが人びとに全力を尽させる刺激だとする考え方は、異教徒的である」とノルウェーのアレクス・ジョンソン司教は述べている。経済的

な利益追求を強調することは物質的以外のものの価値を無視することになる。無制限に金と權威を求めるとは地球を汚染し、資源を必要以上に消費させているのである。

資本主義は自己規制能力に欠けているかみえる。およそ生産販売できるものは何でも生産して販売すべきだという鉄則は、生産を道德基準から外してしまひ、その結果、技術と利益の追求が倫理の基盤になってしまう。弱者を保護し、公正な分配を守り、この地球を次の世代のために保護するためには新しい構造が必要である。社会機構は人間の利己心を助長し、それを利用することも出来るが、また人に対する思いやりと団結心を増すことも出来る。したがって人の

行動やあり方に影響を与えるものである。しかし、その影響を過大評価した結果、多くの人が失望してしまつた。スカンジナビアが良い例である。多くの者は社会公正が行き渡り、人びとの生活水準が高まれば、利己的でなく、責任ある市民が生まれると信じていた。ところが自分の胃袋が十分満たされたらん、

全人類のためによりよい世界を作ろうという気持ちは冷えてしまつた。われわれの多くは小さく、そして楽な目的に満足してしまひ、より大きなものに生きようという若い世代の心を犠牲にしてしまつている。麻薬の乱用や少年犯罪の増加は、その結果の一部である。「労働運動の基本的な理念である団結は、社会が貧しい時ほど強い。繁栄とともに利己主義がはびこる」と

ノルウェー労働党の指導者は一九七五年に書いている。福祉国家にはどこかに不安がひそんでいる。そして経済成長、豊かさ、おぼろげながら認識されはじめている。新しい価値を模索し始めてはいるものの古い考え方を打破し、新しい結論を引き出すことができずにいる。

東欧の国々にも同様の問題に悩んでいるようである。ハンガリー共産党の指導者たちは社会が豊かになるにつれ寧ろ経済的不平等が増し、プチブル的になりつつあることを憂えている。ソビエトの内務大臣シヨロコフは、青年非行の傾向を「重要な問題」と言ひ、それは「家庭の崩壊」によるものだと指摘している。最近のベストセラー

「ロシア人」によると、シヨロコフ氏の息子は「父親の別荘でパーティーを開き飲酒にふけり、父親に買ってもらったメルセデスベンツに乗って進学し、勉強をろくにしないにもかかわらずよい点数をもらえるものど期待している」のだそう。

中国の文化大革命は学習と組織によって新しい動機づけを広げようとした試みであった。利己主義は資本主義者の専売特許でないことを見極めた点で毛沢東は西欧の共産主義者に比べるよりも現実的であったようだ。確かに官僚や知識階級を農場や工場に送りこむことよって違った階層間の理解を助けようとしたのだろうが、この「強制された無私」も毛死後の状況を見ると疑わしいものがある。中国の現在の指導者たちは国の近代化の為に昔風の利己心に頼らなければと思っているようだ。共産主義理論によると、批判と自己批判によって階級のない社会に変化をもたらす源泉だとしているが、どれほど信頼できるものであろうか。批判は派閥や個人が権力を追求するための武器として使われることもできるのである。自己批判は純粋な

のであり得るし、間違った態度を変える事もできる。そうした場合の自己批判はキリスト信者のいう「罪の自覚」と似たものである。しかしある場合には窮地から逃げる手段ともなりうる。問題の中心は人間性そのものである。性悪説を唱える人もいるが、毛沢東にしても階級のない社会になっても、真実と虚偽の斗争は永久に続くといっていたが恐らく性悪説を考えていたのだろう。自分自身の性格を直視することによって本来の人間性を見極めることができるのである。私は常に第一人者になっていたたく、人によく思われたいと思っていた。だから私はいつしよに働く人にとってはむしろかしい男だった。勿論、私のこの性質も資本主義社会に育ったためだと弁解することもできよう。しかしよくよく考えてみると、その根はもつと深いところにあるのだ。

「われわれも悪魔の仲間だ。われわれさえも……………」。
過激な悪の力が地球上の生き者の上にその手をのびしている。ここかしこでは地獄のような状態がおきていることを知りながら、われわれは平和を満喫し、

快くひじかけ椅子に腰をおろし、飲食しながら会話を楽しんでい

ルキスト派の哲学者のマクス・ホークハイマーは書いている。トロツキーが若い頃「私は息のある限り将来のために戦い続けるだろう。人間が強く美しく歴史の奔流をのりこえ、限りなく美と喜びと幸せに向って栄光ある未来をつくるまで」と書いたのと何という違いだろう。

ドイツの劇作家ベロルト、ブレヒトも悪が人間性の一部とは考えていなかったようだ。彼の詩の一つに次のようながある。

壁にかかっている日本の彫刻
それは金箔に塗られた鬼の面
わたしの心は共感をもってながめている。
血管がふくれあがったそのひ

悪であるためには何と大変な努力がなされているのだろう。悪をまともにみつめることは

楽ではない
しかし、今世紀になってさえ悪の証拠は沢山みられる。われわれは教育と啓蒙に大きく信頼をおいているが、世界の中で最も教育が高く、勝れた国家の一つがナチズムの狂気の餌食となっ

たのである。何百万の人びとに希望を与えたロシア革命も偏執的な疑心と狂的な権力欲をもつた男、スターリンを最高の座につかせてしまった。「信頼もよいが、支配することはさらによい」というのが彼のスローガンだった。彼の娘スヴェトラナ、アリクイェフは、秘密警察長ベリアとスターリンのこの関係をこう書いている。「二人は心情的に離れられなくなってしまった。恐るべき悪の天才が父に及ぼした呪詛にも似た影響は非常に強く、失敗したことがなかった」

人間性を変えるのは新しい機構ができてからでよいという人がいる。そういう人たちは道徳基準などにこだわってはいない力をあげて革命斗争はできない

とされている。自分が変わると戦闘的でなくなり、悪に対して妥協的になってしまおうと思うからだ。

自由のために戦った多くの人のびとの経験、ドイツ占領下のノルウェーの戦いに参加した労働組合の人の経験も、政治家のそれも実際はちがうことを証明している。

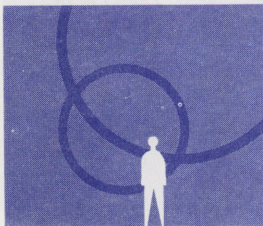
① 不正直を見逃す人、同志間の憎しみを許す人、私生活の中で権力を乱用する人は目的を達成することがむずかしい。

② 理想と生活が矛盾しない人の方が、より多くの人に慕われる。

③ 困難な戦いの中でも信念をくずさない人は勝利を得た後もそれを存続しうる。

(続く)

Jens-J. Wilhelmsen
Man and structures



原語版 (英語)

Man and Structures

(人と機構)

発売中
定価 550円

第3回……マウンテンハウス コー・スイス

北口尚子

私は昨年の夏休み、一ヶ月間を、コーのマウンテンハウスで過ごしました。コーを訪ずれたのは、七六年について二度目のことでした。ジュネーブ空港から高速道路をひた走ること約五分。チャップリン最後の地、ブペイをすぎる頃、はるか前方の山の中腹にマウンテンハウスが見えて来ます。

もちろん、車でそのままコーに行けませんが、私は、ふもとのモントローの町から登山電車の利用をおすすめします。さて、私がコーに着いた時、ジュネーブ湖を眼下に見ることの出来る広いお庭では、すでに沢山の人が集まっていました。「果たして、この中に溶け込んでいけるかしら?」と、チョッピリ不安な気持ちになりました。しかし、クッキングのチームで働き出し、数日がすぎた頃、すっかり生活にも慣れてきました。自分がまった様な、不思議な気持ちになりました。

私は英語で上手に話をする事が出来なかったので、クッキングチームでの仕事は色々大変だったのですが、幸いなことに、チームの皆さんが大変親切にして下さったので、私は言葉

以上の何か暖いものを感じる事が出来ました。確かに、失敗をした時など言葉の不自由さは感じましたが、クッキングチームで働けたことにより、一生懸命に仕事をする大切さを教えられました。

さて会議では、私達の回りには沢山の問題があることを強く感じました。そして、それまで自分は問題を投げやりにしていったこと、又、考えようとしなかったかと思いました。その時、私の中に初めて強い問題意識が湧いてくるのを感じました。そしてそれらの問題を解決するためには、まず自分自身が変わらなければならぬと教えられた時、私は自分自身を振り返って見ました。自分の事だけを考えていた毎日、自分本位の生活に精一杯であったことに気付きました。自分の小ささを感じました。これから、もっと多くの事を知り世界を知らなければならぬ、そんな気持ちになりました。もし私の出来る範囲で、たとえ小さな問題でも解決していくことが出来たら……、こう思った時、新たな希望が湧いてくるのを感じました。

今でも、コーで学んだことを思い出すと、色々な場面で勇氣

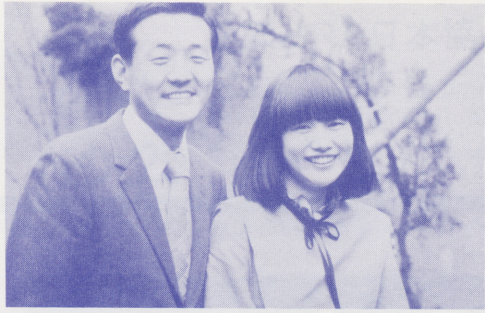
づけられます。日本に帰って来て間もない頃は、何処か気が抜けてしまつて、コーで学んだ事、決心した事を忘れて以前の生活に戻ってしまうこともありました。コーの生活と今の生活の形は違うけれど、根本的な精神は決して変わらないという事を分った時、私は確かに変わったと思います。(終)

さて、次回はロンドンのMRAセンター、44チャールズ・ストリートを紹介いたします。

マウンテンハウス内部



●藤田事務局長、星玲子さんと
婚約。六月十四日挙式



この度、当国際MRA日本
協会事務局長の藤田幸久さんが
日立市の星玲子さんと、当協
会理事長の参議院議員柳沢錬
造御夫妻のご媒妁によりご婚
約がととのい、結婚されるこ
とになりました。六月十四日
午後四時より東京中央教会に
て挙式の予定です。式は藤田
さんの友人のアメリカ人牧師
ジェリー・エイトキン氏の手
でとりおこなわれます。
お二人の益々のご活躍とご
幸福をお祈りいたします。

編集後記

遅れましたが、I M A J ニュース No.25をお届けいたします。ご一
読下さい。

六月の小田原アジアセンターにおけるMRA国際会議の開催も目
前に迫り、事務局も日に日に忙しさを増しています。海外からの参
加者も十七日米日のスタン・シユパードご夫妻（オーストラリア）
を皮切りに続々日本に到着の予定です。

新しいMRAハウスに移ってから早いもので三ヶ月。ようやく落
ちついて来ました。

どうぞ近くにおいでの際は、気軽にお立寄り下さい。さて、この
ニュースに「読者のページ」的なものをもうけたいと思っています。
何かアイデア、又ご意見、ご希望をお寄せいただければ幸いです。

(S)

PHD
研究所

川崎中原区木月372
第1コーポビル2F
〒211
☎044(433)2465(代)
振替東京0-83715

■尚、当協会でもお取次ぎをいたしております。

山崎房一

●定価一、〇〇〇円 千300



好評発売中!!

愛と幸せの発見

あなたの人生を変え、希望を与える

リム

国際MR

国際MR マウンテンハウス
ヨーロッパ



PHD
研究所

PHD
研究所

PHD
研究所

愛と幸せの祭典

お祭りの人達を愛する会